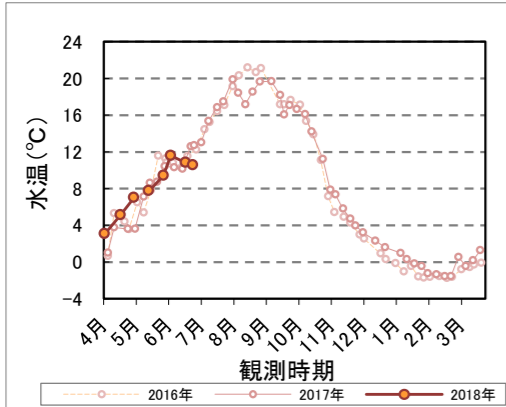


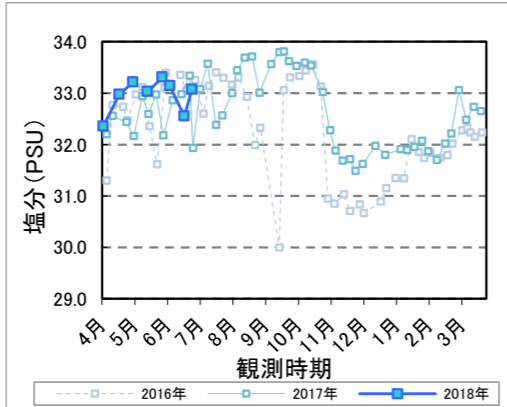
◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2018年6月)

海洋環境データ

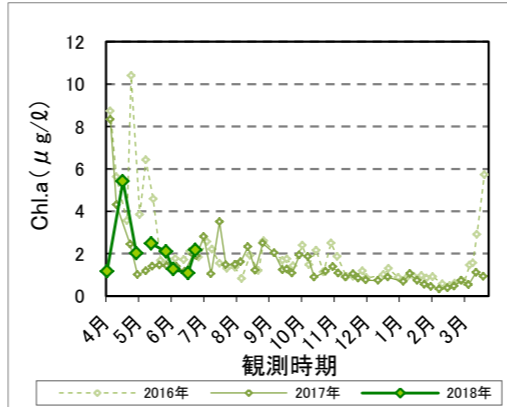
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



※観測：紋別市

※5月7日分は欠測のため非表示

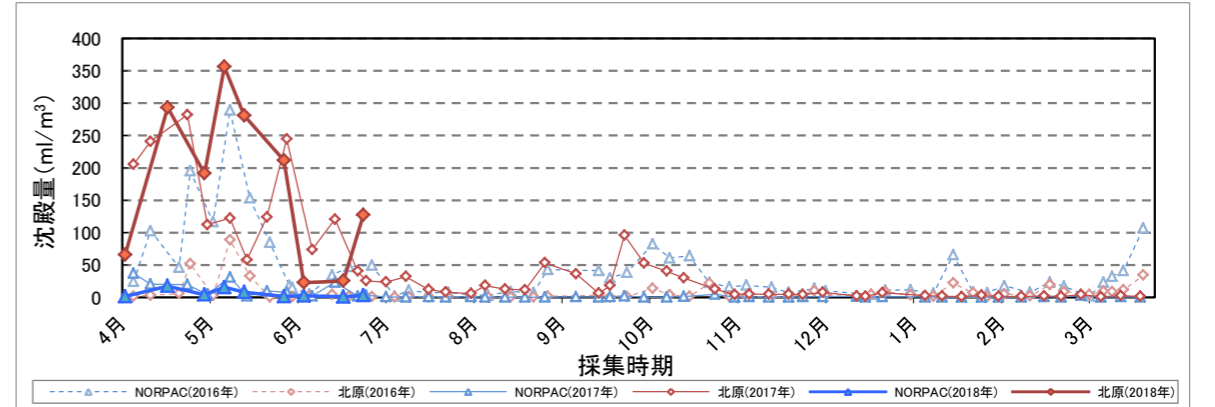
※5月7日分は欠測のため非表示

※5月7日分は欠測のため非表示

動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



概要

	6月4日	6月18日	6月25日
平均水温 (°C)	11.6	10.8	10.6
平均塩分 (PSU)	33.1	32.6	33.1
平均Chl.a (µg/L)	1.3	1.1	2.2
沈殿量 (ml/m³)	(NORPACネット) 2.7 (北原式定量ネット) 22.6	(NORPACネット) 1.2 (北原式定量ネット) 25.4	(NORPACネット) 2.9 (北原式定量ネット) 127.1
主な出現種	(NORPACネット) ○Eucalanus bungii [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Oithona atlantica [++] (カイアシ類の1種) ◎Balanomorpha (nauplius) [+++] (ワジガキ類の1種) リウス幼生 (北原式定量ネット) ◎Pseudocalanus newmani [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Eurytemora herdmanni [+] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ○Acartia steueri [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ◎Oithona similis [+++] (カイアシ類の1種) ◎Copepoda (nauplius) [++++] (カイアシ類の1種) リウス幼生 ◎Pelecypoda (larva) [++] (二枚貝類の幼生)	(NORPACネット) ○Eucalanus bungii [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Acartia hudsonica [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ◎Oithona similis [+++] (カイアシ類の1種) ◎Copepoda (nauplius) [+++] (ワジガキ類の1種) リウス幼生 ◎Echinoidea (echinopluteus) [+++] (ウニ類の1種) リウス幼生 (北原式定量ネット) ○Acartia hudsonica [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ○Acartia longiremis [+] (カイアシ類の1種) [汽水性] ◎Oithona similis [+++] (カイアシ類の1種) ◎Copepoda (nauplius) [+++] (カイアシ類の1種) リウス幼生 ◎Pelecypoda (larva) [++] (二枚貝類の幼生)	(NORPACネット) ○Mesocalanus tenuicornis [+] (カイアシ類の1種) [暖水性] ○Eucalanus bungii [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pseudocalanus newmani [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ○Metridia pacifica [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Acartia longiremis [+++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Balanomorpha (nauplius) [++] (ワジガキ類の1種) リウス幼生 (北原式定量ネット) ○Eucalanus bungii [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Pelecypoda (larva) [+++] (二枚貝類の幼生) ○Eurytemora herdmanni [+] (カイアシ類の1種) [冷水性/汽水性] ○Metridia pacifica [+] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Acartia longiremis [++] (カイアシ類の1種) [冷水性] ◎Oithona similis [++] (カイアシ類の1種) ◎Copepoda (nauplius) [++++] (カイアシ類の1種) リウス幼生
備考	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) -	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) -	(NORPACネット) - (北原式定量ネット) 珪藻かなり多い

出現量の多かった種類

- Pseudocalanus newmani (カイアシ類の1種: 外側 羽2・羽3) 体長: 2.0-1.5mm, ♀0.8-1.2mm. 冷水域に生息する。日本では主に北の沿岸では冬季にPseudocalanus属の1種となる。
- Copepoda (nauplius) (カイアシ類のノープリウス幼生) カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返してノープリウス、コペポダイト幼生の段階を経て成体となる。海産魚類の仔魚生活には、餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生が重要な役割を担っている。
- Acartia longiremis (カイアシ類の1種: 羽1付・羽2付) 体長: 2.1-1.4mm, ♀0.9-1.2mm. 冷水性。世界各地の冷水域沿岸に出現する。日本では主に東北から北海道沿岸に分布する。
- Pelecypoda (larva) (二枚貝類の幼生) 二枚貝類の発生途中の幼生。巻貝と同様、幼生期はトロコフォア、ベリジャーの段階を経る。貝殻はベリジャー期に形成される。
- Oithona atlantica (カイアシ類の1種: 羽1付・羽2付) 体長: 2.1-1.4mm, ♀0.8mm. 沿岸・外洋で普通に出現。
- Balanomorpha (nauplius) (ワジガキ類のノープリウス幼生) フジツボ類の発生途中の幼生。フジツボ類は幼虫が遊動期で、その後成体になり、次にエキネバルテウス幼生、稚ワジガキ幼生に移る。成体は成体になり、キプリウス幼生の段階を経て成体生活に移る。
- Oithona similis (カイアシ類の1種: 羽1付・羽2付) 体長: 2.0-1.0mm. 各地の内海・沿岸・外洋で普通に出現。日本各地の沿岸にみられる代表的な種。各水域に多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。
- Echinoidea (echinopluteus) (ウニ類のエキネバルテウス幼生) ウニ類の発生途中の幼生。成体は長く長い脚をもつバルテウス幼生になり、次にエキネバルテウス幼生、稚ワジガキ幼生に移る。比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+出現、++やや多い、+++多い、++++かなり多い、+++++極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)が多含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献:

①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑[保育社]③岩国市立微生物館 監修(2011)日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]
④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, 8: The *Daniellsenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* 20 (4), 435-444.
⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* 332, 206-215.
⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門[恒星社厚生閣]⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* 52 (2), 92-99.
⑧西・加藤(2002)日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について. *タカサ*. 13, 5-17.⑨今島(1996)環形動物 多毛類[生物研究社]⑩日本プランクトン学会 監修(2011)すかん プランクトン[技術評論社]⑪水島・鳥澤 監修(2003)漁業生物図鑑 新 北のさかなたち[北海道新聞社]
⑫古賀(1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生. *日本水産学会誌* 26 (9), 877-881.⑬伊藤・水島・久保田(2005)駿河湾三保沖におけるカラヌス目カイアシ類の季節的消長. *東海大学紀要海洋学部*. 3 (1), 19-35.
⑭大越・野村(1990)穿孔性多毛類 *Polydora* 属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況. *日本水産学会誌* 56 (10), 1593-1598.